第18回 U-15ブラジル－日本友好カップ2015

毎年9月の恒例、U-15ブラジル日本友好カップが、今年もブラジルリオデジャネイロにあるCFZジーコサッカーセンターで開催されました。U-15世代におけるブラジルでも最も重要な公式大会、第16回を迎えた今回も、日本から鹿島アントラーズ・ノルテ、つくばJリーグ選抜が参加しました。

全部で20チーム・ブラジルの強豪が集結したレベルの高い大会で、顔ぶれは、フランシスコ・フルミネンセ、ヴァスコ・ボタフォゴのリオ4大クラブをはじめ、サンパウロ州のコリンチャンスやサントス、ミナスジェライス州のアトレチコミネイロやクルゼイロなど。

また、過去にもJクラブやオーストラリアのチームが参加するなど、世界の少年たちの夢をボードしてきたこの大会、今回は、ハイチ国旗記念日の式典にジーコが招待されたことが縁で、ハイチのチーム招待が実現しました。

鹿島アントラーズジュニアユース

鹿島アントラーズノルテジュニアユース

鹿島アントラーズつくばジュニアユース

Jリーグ選抜

予選リーグ
日本勢、決勝トーナメント進出ならず

Jリーグ選抜

Jリーグ選抜の初戦は、ブラジルの強豪ヴァスコ。日本人の個々の技術のクオリティ、見ているブラジル人から驚きの声があがります。しかし、この大会に出場するために結成されたチーム。よい内容ながら、コンビネーション不足と疲労もあり、最後は0対3で敗れてしまいました。

第2戦の相手はボア・ヴィスタ。まさに取って取られての激戦となったこの戦い。最後的には2対3で、惜しい敗戦。激戦激闘を経ての第3戦は、やはり強豪サントスとの対戦。育成にも定評のある相手に、なんと1対5。厳しい敗戦となってしまいました。なお、この大会から新設された個人賞、チーム内の大会MVPには、MF篠田憲政選手が選ばれました。

鹿島ジュニアユース

鹿島からは例年通り、鹿島、ノルテ、つくばの3チームが出場しました。ジーコは自分が鹿島で、選手や指導者として仕事をしたことの誇りを、選手たちに話してくれました。苦しいときも乗り越えて築いた、勝者のチームスピリッツを着る誇りを胸に戦ってほしいと、語りかけるジーコでした。

鹿島JYの初戦は、バングー戦。試合全体を通してペースをつかみ、危なげない戦いで2対0の勝利。グループリーグ突破に向けて、幸先のよいスタートを切りました。第2戦オザスコ戦も、再び2対0で快勝。攻めては確実に2点を取り、守っては無失点の連戦連勝！

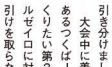
引き分けでも決勝トーナメント進出ですが、確実にもう1勝あげて、次に進みたい第3戦、相手は、やはりこの試合に予選突破がかかるアルゼンチンのCFZラジリアと互角の戦い、1対1で引き分けました。

大会中に著実な成長を遂げつつあるつくばはJV。いい形で締めくくりたい第3戦でしたが、強豪クルゼイロに対し、前半こそ相手に引けを取らないプレーを見せたものの、最終的に1対6の大敗に終わってしまいました。チーム内MVPには、MF布施駿作選手が選ばれました。

ノルテジュニアユース

ノルテJYの第1戦は、リオの強豪ボタフォゴとの対戦。終始互角に戦い、多くのチャンスを作ったのですが、惜しくも0対1で敗れてしまいました。第2戦は、アメリカとの対戦。負けはいない戦いを見せたノルテJYは、2試合目にして、のびのびと実力を発揮。リオの古豪に、2対0で快勝しました！

ここまで1勝1敗、勝って決勝トーナメントに行きたい第3戦は強豪コリンチャンスとの対戦。前半に2失点し、最終的に0対2。後半の健闘を見るにつけ、本当に悔しい敗戦となってしまいました。チーム内MVPには、FWの前田恭亮選手が選ばれました。



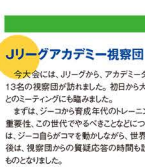
つくばジュニアユース

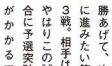
つくばJYの初戦は、強豪フルミネンセ。前半に4点を奪われ、ブラジルの洗礼を浴びましたが、後半は健闘し、最終的に1対4とヴァイ。互いに引けを取らない激闘も、最終的に0対2の敗戦で、夢は途絶えてしまいました。チーム内MVPには、キャプテンでFWの前田恭亮選手が選ばれました。

決勝トーナメント
優勝はボタフォゴ！

準々決勝を経て、大会史上初めて、リオの4大クラブが進出する結果となった準決勝。ブラジルのテレビ局が生中継するなか、決勝に進出したのはボタフォゴとフルミネンセ。互いに一歩も引かず、延長戦を経て、PK戦にもつれ込んだ熱戦は、全員が成功したボタフォゴの優勝で幕を閉じました。

ジーコはブラジルでも連日、イベントやプロジェクトに引っ張りだこ。この日も、詰めかけたメディアに応対しながら、少年たちの戦いを見守りました。ジーコが常に語る、育成年代でも重要なU-15世代。その大会のすべてを仕切った後は、CFZまでチャーターしたヘリコプターに乗って、次の出張へと飛び立ったのでした。ジーコ、お疲れ様、そして、ありがとう！





comment

Jリーグアカデミー視察団

今大会には、Jリーグから、アカデミーダイレクターや、クラブの下部組織指導者、総勢13名の視察団が訪れました。初日から大会を通して、じっくり試合を観察しとはか、ジーコとのミーティングにも臨みました。

まずは、ジーコから育成年代のトレーニングに関する考え方や、U-15というカテゴリーの重要性、この世代でやるべきことなどについての講義。育成に対する熱い思いを聞いた後は、ジーコ自らがコマを動かしながら、世界やブラジル、日本での戦術についての説明。最後は、視察団からの質疑応答の時間も設けられ、ミーティングは1時間を超える、充実したものとなりました。

ジーコ
将来ビッククラブや代表で活躍する選手になってほしい

今大会も、出場チーム、運営スタッフのみんなが、非常にいい姿勢で臨んでくれた。育成年代の大会では、すべてがきちんと機能することが重要なんだ。この大会は誠実に関係者のおかげっぱなしで、ビックのなかでも、勝利に値するチームが決勝に到達した。

もちろん、日本のチームにはもっと頑張していただきたいけど。特にアントラーズとJリーグ選抜には、予選突破のチャンスがあった。アントラーズは最初の試合で勝利しただけに、得失点差で惜しみの残念だったよ、という、将来のためにいい経験になるはずだ。それが、この大会の目的なんだからね。

育成年代の選手と指導者は、自分たちの力とポテンシャルを信じて欲しい。そして、よい選手になるための、よい準備をすること。将来ビッククラブや代表で活躍するような、素晴らしい選手たちが頭角を現して欲しい。それが、この大会を運営する我々の願いだ。第18回大会もよいものになった。天気も手助けし、すべてがうまくいった。それを幸せに思っている。

鹿島JY 中村幸聖監督

予想以上にやれた初戦。2戦目は全員の守備意識が高く、厳しい展開のなかで踏ちきったことが大きくなると思います。3戦目は、相手が予選突破のために、勝利を必要としていた。僕らも下から立ち向かうときには、いい勝負ができるけど、逆に自分たちが優位に立ったとき、死にもの狂いで来る相手に対しても、勝ちきれるような勝負強さが必要だと実感しました。

絶対に上にあがるんだ、というプラン人のハングリー精神を、日本に帰っても忘れてはいけない。サッカー選手になりたいという気持ちを、日々の努力に示つけること。恵まれた環境のなかでも、向上心を持つこと。それを選手たちに伝えたいです。

つくばJY 土田哲也監督

フィジカル的な部分、スピード、あたりの強さなどの差を、みんなの動きや運動量でカバーしたかったんですが、うまくいかないところもありました。ただ時間帯によっては、みんなでボールを動かして、ゴールに向かえる場面もあったし、後半相手に得点できた部分では、みんなの頑張りが見えました。2試合目、フィジカル的には相手の方が上だったなかで、優位に試合を進められたのは、今まで日本でやってきたことが間違いではない、ということです。

加えて、選手たちはブラジル人との実戦のなかで、プレッシャーを受けてもしっかりボールを扱える部分や、今は点を取りに行く、というときのパワーの出方、そういう試合の流れのなかでの質さを、感じてくれたと思います。

鹿島JY 原田武男監督

初戦はいい入り方をして、チャンスも作りながら、そこを決めきれずにいるうちに、相手の個の力で失点してしまい、踏ん張りきれなかった。2戦目は、後半非常によくできたのですが、それを相手云々ではなく、自分たちから出ていかないといけない。それが難しいというところが、日本人の弱さなのかなと。3戦目は結果の通りで、強さを見せつけられました。

3試合を通して、日本の強みというのは、立ちなかせばきません。逆に、サッカーで一番大事なものを、ブラジルの選手たちに教えられました。つまりまず「戦う」こと。環境の違いや何かを言い訳にせず、常に100%で戦える選手になってほしい、僕自身も、そういう選手を育てていきたいと思っています。

Jリーグ選抜 原田武男監督

初戦はいい入り方をして、チャンスも作りながら、そこを決めきれずにいるうちに、相手の個の力で失点してしまい、踏ん張りきれなかった。2戦目は、後半非常によくできたのですが、それを相手云々ではなく、自分たちから出ていかないといけない。それが難しいというところが、日本人の弱さなのかなと。3戦目は結果の通りで、強さを見せつけられました。

3試合を通して、日本の強みというのは、立ちなかせばきません。逆に、サッカーで一番大事なものを、ブラジルの選手たちに教えられました。つまりまず「戦う」こと。環境の違いや何かを言い訳にせず、常に100%で戦える選手になってほしい、僕自身も、そういう選手を育てていきたいと思っています。

ノルテJY 天野圭介監督

1勝1敗で迎えた3戦目は、相手がコリンチャンス。しかもお互いに予選突破がかかった1戦となり、プラジルでビッククラブと真剣勝負ができました。前半2点取られても、後半立て直して、素敵に逆転してくれました。3年間積み上げてきたことを出し切ったなかでの敗戦だったので、必ずや成長に繋がるはずです。

日本の選手たちもサッカーの本質をプレーで表現できるようになり、ずる賢さも含めて、勝負というものが身についてきています。ただ、個の部分で比べたときに、ブラジルとはまだちょっと差がある。それなら、その差を作らないために、我々スタッフもここで10歳からの育成も見ていける経験もしっかり活かしていきたいなと思います。

(Text by 徳原清美 / Photo by Jorge Ventura & George Henrique)

日本からの出場チームは、予選リーグを突破できませんでしたが、敗退後も、地元クラブとの親善試合や、前フットサル日本代表監督サッポ主催によるフットサル大会にも出場。プロの試合観戦や、ブラジル料理体験など、有意義な時間を過ごしました。

試合結果

グループA

	アメリカ	コリンチャンス	ノルテJY	ボタフォゴ	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
アメリカ		0－4	0－2	1－2	0	0	3	0	1	8	-7
コリンチャンス	4－0		2－0	1－1	7	2	0	1	7	1	6
ノルテJY	2－0	0－2		0－1	3	1	2	0	2	3	-1
ボタフォゴ	2－1	1－1	1－0		7	2	0	1	4	2	2

グループB

	サントス	ボアヴィスタ	ヴァスコ	リーグ選抜	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
サントス		2－0	1－1	5－1	7	2	0	1	8	2	6
ボアヴィスタ	0－2		1－3	3－2	3	1	2	0	4	7	-3
ヴァスコ	1－1	3－1		3－0	7	2	0	1	7	2	5
Jリーグ選抜	1－5	2－3	0－3		0	0	3	0	3	11	-8

グループC

	クルゼイロ	CFZブラジリア	フルミネンセ	つくばJY	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
クルゼイロ		3－0	0－2	6－1	6	2	1	0	9	3	6
CFZブラジリア	0－3		0－2	1－1	1	0	2	1	1	6	-5
フルミネンセ	2－0	2－0		4－1	9	3	0	0	8	1	7
つくばJY	1－6	1－1	1－4		1	0	2	1	3	11	-8

グループD

	バングー	アヴァイー	オザスコ	鹿島JY	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
バングー		0－4	1－9	0－2	0	0	3	0	1	15	-14
アヴァイー	4－0		0－1	2－0	6	2	1	0	6	1	5
オザスコ	9－1	1－0		0－2	6	2	1	0	10	3	7
鹿島JY	2－0	0－2	2－0		6	2	1	0	4	2	2

グループE

	アトレチコミネイロ	Paraíso Negro	ボルトゲーゼ	フラメンゴ	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
アトレチコミネイロ		1－2	4－1	0－4	3	1	2	0	5	7	-2
Paraíso Negro(パ)	2－1		0－1	0－2	3	1	2	0	2	4	-2
ボルトゲーゼ	1－4	1－0		0－3	3	1	2	0	2	7	-5
フラメンゴ	4－0	2－0	3－0		9	3	0	0	9	0	9

準々決勝　8月23日(日)

フラメンゴ	3－1
フルミネンセ	1－0
サントス	0－0(PK4－5)
コリンチャンス	0－1
クルゼイロ	
オザスコ	
ボタフォゴ	
ヴァスコ	

準決勝　8月24日(月)

フラメンゴ	0－2
ボタフォゴ	1－0
フルミネンセ	
ヴァスコ	

決勝　8月25日(火)

フルミネンセ	0－0(PK4－5)
ボタフォゴ	